

【表1】中期財政見通しの収支見通し

年度	歳入	歳出	歳入歳出 差し引き
平成19年度	191億7,300万円	194億8,800万円	△3億1,500万円
平成20年度	179億4,300万円	188億1,800万円	△8億7,500万円
平成21年度	177億7,100万円	184億9,800万円	△7億2,700万円
平成22年度	178億5,400万円	187億5,800万円	△9億400万円
収支不足額累計			△28億2,100万円



平成20年度の収支不足額は8億7千500万円もあるのね...

この4年分の累計が約28億2千万円。この収支不足額を毎年解消していかなければならないんだ。



【表1】を見ると、各年度の歳入歳出差し引きがマイナスになっているよね。

中期財政見通し
(平成19年度～平成22年度)
の収支見通し

【表2】財政健全化に向けた取り組み状況一覧表

区分・項目	年度	平成20年度財政効果額	
		中期財政見通し の見込み額	実績額
(1) 行政経費の縮減 (財政効果額7.3億円程度)※		2億7,419万円	4億1,341万円
①少数精鋭を基本とした職員体制の構築		—	8,687万円
②嘱託・臨時職員の縮減		995万円	1,319万円
③給与独自削減	一般職等	1億8,135万円	1億7,551万円
	特別職	1億7,057万円	1億6,458万円
④事務費の削減		1,078万円	1,093万円
⑤高利率市債の繰上償還		2,008万円	4,332万円
⑥高利率市債の繰上償還		6,281万円	9,452万円
(2) 事務事業の見直し (財政効果額1.7億円程度)※		1,449万円	6,190万円
①普通建設事業の見直し (一般財源ベース)		△40万円	3,716万円
②事務事業の見直し		1,489万円	2,474万円
(3) 歳入の確保 (財政効果額4.6億円程度)※		1億9,388万円	1億6,936万円
①市税徴収率の向上		2,525万円	△1,843万円
②遊休不動産の売却		1億7,000万円	9,342万円
③受益者負担の適正化		—	—
④退職手当債の活用		△137万円	9,437万円
(4) 基金の計画的運用と適切な活用 (財政効果額14.6億円程度)※		3億9,261万円	1億9,700万円
財政調整基金		1億7,001万円	1億2,000万円
減債基金(ルール外分)※		7,760万円	5,000万円
生涯学習振興基金		1,000万円	1,000万円
おもいやり基金		3,000万円	1,300万円
観光開発基金		500万円	400万円
備荒資金組合超過納付金		1億円	0円
総合計		8億7,517万円	8億4,167万円

※()内の財政効果額は、見通し期間(平成19年度～平成22年度)の合計額です。
※減債基金は、市債(借金)の償還に充てるための貯金ですが、特定の市債の償還に充てないものをルール外分としています。

うん。でもこの収支見通しは、何も対策を講じなかったとしたら...という前提の試算なんだ。中期財政見通しでは、『財政健全化に向けた取り組み』として、次の4つの項目に分けて財政効果額を見込んでいるんだ。

これらを柱にして具体的な取り組みを盛り込んであるんだよ。



▲中期財政見通し(平成19年～22年度)

財政健全化に向けた取り組み

- 行政経費の縮減 (財政効果見込み 7.3億円程度)
- 事務事業の見直し (財政効果見込み 1.7億円程度)
- 歳入の確保 (財政効果見込み 4.6億円程度)
- 基金の計画的運用と適切な活用 (財政効果見込み 14.6億円程度)



平成20年度の取り組みと効果がまとめたのが【表2】だよ。

平成20年度は、試算された収支不足額8億7千500万円の解消に努めたんだ。



この財政効果額を合わせるとちょうど28億2千万円になるのね。